

## IPPS - J 会長 新年のご挨拶

IPPS-J 会長 鈴木 隆博



新年明けましておめでとうございます。皆様には良いお年をお迎えの事と存じます。また、会員の皆様におかれましては日頃からIPPS-Jの活動にご理解、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

IPPS日本支部は、1994年9月に設立をして、各地で日本支部の年次大会を行い、昨年は第20回記念大会が岐阜県大垣市で開催されました。私たちは『Seek&Share』(共に学びわかちあう)の下、研究発表、産地見学を行い、植物増殖に関する手法や園芸植物の生産に関する情報交換、さらにここ数年はニュージーランド支部との交換研修正の国際交流事業も進めて参りました。

日本支部が発足してから、20年が経ちますがその間、会の運営、活動に係わってこられた皆さんに置かれましては、大変なご苦勞もあったのではないのでしょうか。ここに感謝申し上げあげます。また、毎年開催される大会に参加された方々には植物増殖、生産、流通、研究に関してそれぞれの業界にとらわれない研究発表、産地見学をすることに寄り、日頃入手できない技術や情報を交換し、友好関係を深めることが出来たことと思います。

このような素晴らしい理念を掲げるIPPSですが、今後、さらに継続、発展して行くには、次世代の若者の育成も必要ではないでしょうか。一昨年に開催された愛媛大会、そして昨年の岐阜大会では大学生、園芸アカデミー、農業高校などの若い学生の参加が数多くあり、研究の取り組みや体験談、ポスター展示資料展示、今後の抱負などと、今までにない活気あふれる大会になりました。全国の農業に関する学生による研究発表が出来る場として提供が出来れば、さらに大きな組織として、認知されると考えます。もちろん今までのように植物に関する技術的な研究発表も今まで通り行いますが、メーカーによる新商品の紹介、生産者による成功体験や新しい取り組みの報告、そして学生による発表などを行うことによって、より内容の充実した大会になる事でしょう。

IPPSは日本国内だけでなく、世界に扉が開かれたユニークな素晴らしい会です。積極的に参加をして良き仲間に出会い、情報交換して自らメリットを創り出して頂きたいと願っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

### 目次

IPPS - J 会長 新年の御挨拶(鈴木 隆博).....	1	IPPS日本 ニュージーランド支部間交流事業報告(日高 拓未).....	11
第21回 神奈川大会のご案内(乗越 亮).....	2	「浜名湖花博2014」の紹介(鈴木 智子).....	13
ブルーベリーの成熟機構について(岩崎 直人).....	3	大森直樹会員の著作の紹介.....	14
北海道でシクラメンの育種に取り組んで20年(不破 規智).....	5	新入会者の紹介.....	15
Business Report with PIX December 2013(齊藤 正二)...	7	IPPS-J 第九期理事・監事・役員・理事代理名簿.....	16

## 第21回 神奈川大会のご案内

東京農業大学 農学部農学科 乗越 亮



第20回の記念すべき岐阜大会が終了したばかりですが、早くも第21回大会のご案内です。久しぶりに神奈川が担当せよとのことで、2014年10月4日(土)・5日(日)に、東京農業大学厚木キャンパスで開催させていただくこととなりました。会員の皆さまには是非ともご参加いただき、大いに盛り上げていただけましたら幸いです。

会場となります厚木キャンパスは、13年前に世田谷から農学部が移転して誕生いたしました。神奈川県厚木市の中心部から程近い丘の上にあり、隣接する厚木ぼうさいの丘公園と一体化した「緑豊かな公園型キャンパス」です。本学OBの方には厚木中央農場の名称の方が親しみ深いかもしれませんが、現在では1学部3学科を擁する活気に満ちた学生たちの学び舎へと変貌を遂げております。

1日目は、この厚木キャンパスの講義棟にて研究発表会や総会などを行います。空き時間を利用してのキャンパス内の散策にも、ちょうど良い季節を迎えていることと思います。夕刻には、会場をキャンパス内のレストランに移して、ささやかながら懇親会を催します。恒例のオークションも行いますので、是非ご出品をお願い致します。

2日目は、近隣の生産者圃場、研究施設などへの見学を予定しています。遠方よりお越しで、お帰り時間などが気になる方もおられると思いますので、無理ない行程でご案内できればと計画中です。一緒に準備をしている先生方の「あまり背伸びをせず、ありのままのおもてなしを」との言葉の通り開催できればと思っております。多数のご参加を重ねてお願い申し上げます。



東京農業大学 厚木キャンパス



キャンパスの講義棟

# ブルーベリーの成熟機構について

明治大学農学部 岩崎 直人



今年は8月上旬に10日間ほど、バンコク市内に滞在して、近隣の農村を見て回った。8月にタイを訪れたのは久しぶりであったが、何故か涼しく感じた。日本は南北に長く、年平均気温は那覇市の22℃前後から札幌市の7℃前後まで、その差が非常に大きい。したがって、温暖な気候条件を好む熱帯性の果樹から、冷涼な気候条件を好む冷温帯性の果樹まで多様・多様な果樹を栽培することができる。冷涼な気候条件を好むハイブッシュブルーベリーが北海道に初めて導入されたのは60年以上も前のことであるが、近年は地球的規模の環境変動の影響でわが国の気温も徐々に上昇してきているように思われるので心配である。

ブルーベリーは鐘形あるいは壺形の小花が10個程度集まって1つの花房を形成し、小花は花房の基部から順次開花するが、果粒の成熟は開花の早晚と明瞭な関係はない。したがって、1樹当たりの開花期間は1~2週間程度であるが、果粒の収穫期間は1ヶ月から1ヶ月半程度継続することも珍しいことではない。果粒は40~50個の種子を含有していることが普通で、これまでの研究では果粒の成熟は種子数に影響される

ことが明らかになっている。すなわち、1果粒当たりの含有種子数が多くなると、開花から成熟までの日数が短くなる傾向にある。ブルーベリーは花の着生状態や形態から、開花時に自家花粉による受精で結実することが可能であるが、他家受精では自家受精に比べて種子数が多くなる。また、他家受精であっても、花粉親の品種の違いでも種子数は変動する。したがって、自家受精で結実した果粒に比べて他家受精で結実した果粒の成熟が早くなる傾向があり、その程度は花粉親の品種によっても異なる。さらに、果粒の大きさも同様の影響を受ける傾向にあることも確認している。このように、果実の成熟や大きさが花粉親の影響で変動する現象は、「メタキセニア」として知られており、ブルーベリー以外でも報告されている。

‘コリンズ’と‘ディクシー’は共にアメリカで育種されたハイブッシュブルーベリーの品種であるが、前者は1959年に発表された早生系品種、後者は1936年に発表された晩生系の品種である。これらに、数品種の花粉を用いて人工授粉を行い、1果当たりの種子数、成熟までの日数、



ブルーベリーの実



ブルーベリーの花

表2 .人工授粉に用いた花粉親の品種と果粒の成熟日数および品質の関係(2008年)

種子親	花粉親	開花から成熟までの日数	果粒当たりの褐色種子数(個)	果粒重	Brix(%)	果皮色(c*値)
コリンズ	(放任受粉)	62.3 b <sup>z</sup>	0.7 d	1.3 c	12.0 -	1.06 b
	コリンズ	65.0 a	5.5 c	1.9 b	12.3 -	1.12 a
	パークレイ	60.2 b	23.0 a	2.6 a	12.9 -	0.78 c
	ダロー	60.3 b	14.7 b	2.3 a	12.7 -	0.94 bc
ディクシー	(放任受粉)	73.3 a	2.8 c	1.3 b	11.5 b	1.29 a
	コリンズ	69.2 b	20.2 b	2.7 a	12.2 b	0.92 b
	パークレイ	68.1 b	42.7 a	3.2 a	13.3 a	0.92 b
	ディクシー	72.7 a	5.6 c	1.6 b	12.8 a	1.20 ab

<sup>z</sup>異なるアルファベット間には、フィッシャーのPLSDで5%レベルの有意差あり

果実重などを調査してみた【表2】。1果当たりの種子数は、概して自家受粉で少なくなる。一方、他家受粉では花粉親の品種により異なるが、花粉の発芽率が高い品種の花粉で受粉した場合に種子数は多くなる傾向にあった【表1】。果実の成熟日数と果粒重は、共に種子数の影響を受けると思われた。開花から成熟までの日数は種子数が多くなる程短くなる傾向にあるが、果粒重は種子数が多くなるほど大きくなる傾向にあった。したがって、これまでの報告と同様に花粉親

の違いによって果実の形質が影響されているように思われる。しかしながら、花粉親の違いで異なる種子数、それに伴う成熟日数と果粒重の変動は、共に連続した変化であることが明らかになった【図1】。すなわち、花粉親の影響は単に種子数だけに現れるもので、自家受精で形成された種子も他家受精で形成された種子も同程度に影響すると考えられる。このような現象が、「メタキセニア」に該当するのか疑問である。この点について、今後も検討する予定である。

表1 .花粉発芽率における品種間差異(2008年)

	花粉発芽率 <sup>z</sup> (%)
コリンズ	41.9 ± 0.78 <sup>y</sup> b <sup>x</sup>
パークレイ	62.4 ± 0.19 a
ディクシー	25.3 ± 0.64 b
ダロー	42.5 ± 0.88 b

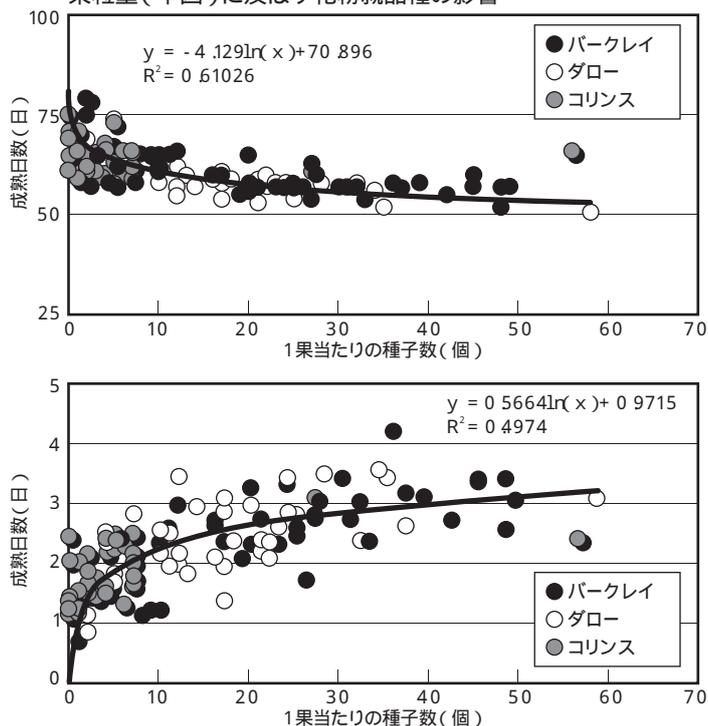
<sup>z</sup>発芽した花粉数 / 観察した花粉数

<sup>y</sup>標準誤差

<sup>x</sup>異なるアルファベット間には5%レベルで有意差あり



図1 .コリンズの果粒における成熟日数(上図)および果粒重(下図)に及ぼす花粉親品種の影響



# 北海道でシクラメンの育種に 取り組んで20年

雪印種苗株式会社 研究開発本部 不破 規智



平成5年に転職して故郷の北海道へ戻り、現在の会社で仕事を始めてから20年が経ちました。

当時、会社の新規事業として始まった花の分野はゼロからのスタートで、先輩から「シクラメンの種子は年間何トンくらい売れるものなのか？」と訊かれて答えに困ったことを覚えています（牧草・飼料作物の種子流通はトン単位の話なのです!）。

そんなスタート時に開発の対象として選んだ植物はいくつかありましたが、メインに据えたのはシクラメンです。理由は2つあり、1つ目は冷涼な北海道に開発の拠点があること、2つ目は会社に組織培養の技術があることでした。



北海道で見事に咲くシクラメン ヘデリフォルム

## 北海道でシクラメンを育種する利点

北海道では夏もシクラメンを休ませずに育て、いつでも交配・播種することができます。このおかげで、関東以西であれば1世代進めるのに2年を要するところが北海道では約1年。この違い

はとても大きいです。

世代を早く進めることでF1親の固定を短期間で行うことができますし、この過程でさまざまな形質の遺伝様式を把握することが可能です。さらに、重要な遺伝資源も暑くない北海道なら温室内で長期間保存でき、今も「15年物」の保存株が温室内にゴロゴロあります。

一方で「北海道で育成された品種は暑さに弱いのではないか？」と生産者の方に指摘される場面があり、ご心配は当然なことだと思っています。この面では、商品化前に必ず自社の千葉研究農場（千葉市）で特性を確認し、生産者さんの温室でも試作評価を受けることとしています。

## 組織培養技術の利用

組織培養を利用する目的はいくつかありますが、私たちにとって重要なのは①薬（花粉）培養の育種利用、②親系統の増殖と保存、③大量増殖



四倍体品種ビクトリアを薬培養で二倍体にし、ミニ系へと導入した ラフィンシリーズ

による栄養系苗の生産、です。

まず①葯（花粉）培養では四倍体品種を二倍体にすることで、複雑だった遺伝様式を分かりやすくすることができました。さらに、四倍体品種の特殊な形質を二倍体品種へ導入することで新しい系統を作っています。

次に②親系統の増殖と保存は重要で、近親交配では稔性の落ちやすい固定系統を、世代を進めずしかも無病苗で更新・増殖することができます。

最後の③大量増殖では、特別な特許技術を持っています。私たちは「マイクロチューバー」と呼んでいますが、選抜した1個体の組織から大量の小塊茎を無菌的に生産するものです。このクローン増殖技術により、種子系では固定の難しい複雑な形質をもつ個体や、種子のできない八重咲きの個体を選抜して増殖することができます。



八重咲き大輪の組織培養品種 ファルファール

## 海外への挑戦

日本で利用されているシクラメン品種のうち、意外に多くの種苗は海外のメーカーのものが使われています。特に安価な鉢物やガーデンシクラメンは大部分がそのようです。これは、日本で



ドイツで毎年開催される IPM ESSEN にて、JAPAN パビリオンに参加し初めてシクラメンを展示。左：営業の長田課長、右：不破

育種をしている私たちとしては悔しい現実です。

そんな中、まだわずかですが私たちもシクラメン種子の海外マーケットに挑戦しています。北米やヨーロッパの冷涼な地域は北海道の気候と似ており、ここでも北海道での育種が役に立っています。

## 最近気になること

エピジェネティクスが気になっています。育種のさまざまな場面で「突然変異」では片付けられないような現象に出くわし、分からないままモヤモヤしていました。この分野は医学で研究が進んでいるようですが近年は植物での知見も増え、まだまだ勉強が必要だと痛感しているところです。

以上

## Business Report with PIX December 2013

Chiangmai Setcon Co.,Ltd 齊藤 正二

北タイ王国に在住の会員 齊藤正二さんから写真の投稿です。現在、咲いている齊藤さんの農場の植物達です。コメントも大変に参考になります。

CSF December 18,2013



熱帯の植物たちは生育の質的变化をするためには低温を必要とする長日植物はほとんどなく短日が引き金になります。  
短日とは春の彼岸から日足が伸びる季節に成長し夏至から日朝が短くなるのに感応して花芽を作る植物たちをさします。

12月も末となれば北タイは寒乾季の真っ最中朝は10 昼でも25 くらいです。今年は12月中旬ごろまで降雨あり芝生もまだ青々しています。異常です。それでも短日性の花たちは次々と花を咲かせはじめました。㊦と㊧は17日に撮影したものです。

㊦はHibiscus Rozelです。野生化していますが変異あり。左からやや小さめでピンク赤、中は中実で濃い赤 右はAyuchayaで採取した大実でより濃い赤の系統です。

㊧はHyptisといい当社の荒れ地の雑草でしたが緑から徐々に黒く変色してくる丸い種実でアレンジに好適かと思いい栽培化して現在切り花として輸出しています。園芸植物はもとは全て野生のものからです。雑草と言う名前の草は無い、という典型です。



Cissus obataの気根です。  
雨が降るように根を伸ばします。  
地に着くとたちまち分枝(根)して  
雨糸も褐色に変わり太くなり  
大きく根をはります。  
すごい生命力です。

寒くなるとAllamandaの  
色が冴えてきます。  
暑い季節は寝ぼけた色でしたが  
今は上のように見事な発色です。



寒さと短日でミニカトレアが咲き始めました。  
今はなき堂ヶ島洋らんセンターで育種された世界的名花の数々です。  
ミニカトレアは全体小作りで花も愛らしいし寒さにも強いのが特徴です。  
日本でも暖地では外で越冬します。

北タイにはアフリカ原産のSpathodea  
チューリップツリーが街路樹として  
植えられています。  
今はその花盛りです。  
蕾には沢山の水が蓄えられていますが  
意外と水揚げの悪い花です。  
しかし蕾でもインパクト大です。  
当社正門から入った奥の方です。  
10数年前に私が植えた木々も  
うっそうと茂りました。





今年の寒乾季は異常です。  
 普通タイ正月ソクラーンのころに  
 咲くタイの国花  
 ゴールデンシャワーの狂い咲きです。  
 タイの異常な政争の反映みたいです。  
 手前にある緑の棒状のものは種莢で  
 これは開花後ほぼ一年かかって  
 登熟する気の長い花です。

15日に本社社屋のための  
 Thambunをしました。  
 精霊信仰と仏教が入り混じった  
 行事です。  
 ニさんと坊さんをお呼びして  
 執り行います。  
 その時の装飾です。  
 ニさんが手作りしました。  
 実に器用に作ります。綺麗。

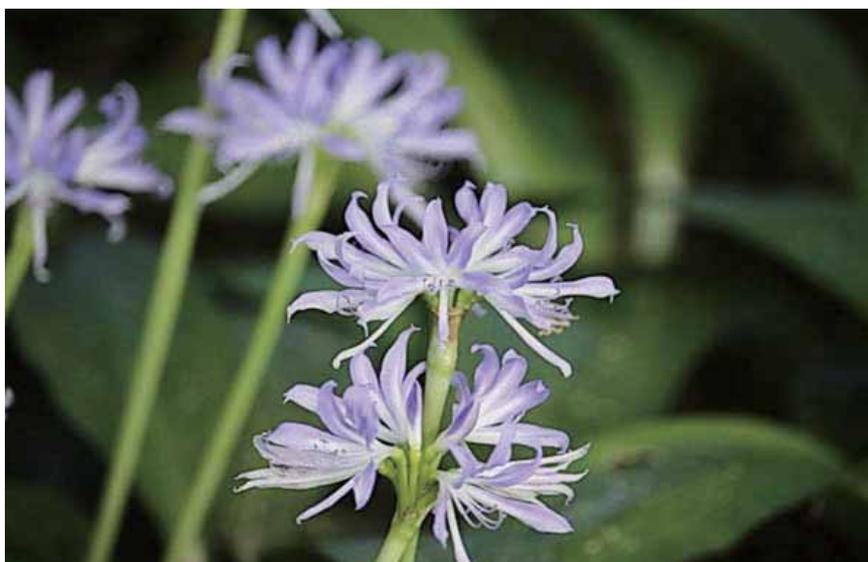


Thambunははじめ外で執り行い  
 のち屋内でやります。  
 私ども家族が座る場所でわたしに  
 もいわれの分からないものが  
 飾られています。  
 前のザプトンのところには  
 高僧が坐します。  
 木綿糸の結界が張られます。



寒乾季の名花Bougainvilleaです。  
これは30年近い古木です。  
2色接ぎ木してあります。

12月の雨。これに反応して  
Griffinia libanoticaの花が  
咲きました。  
既に堀上の時期だというのに  
葉は青々としています。  
暑い季節よりも色は綺麗に  
発色しています。  
熱帯性の球根類はけっこう  
たくさんあります。  
夏生育型の球根はこの括りになります。  
いわゆる春植え球根類は熱帯、  
亜熱帯に原産するものが多いです。



当社の名前を付けた  
Zygopetalumが咲いています。  
不定期咲きですが当社のものは  
やや大輪でほのかな香りがある系統です。  
後ろはGloriosaのLemonDropです。

# IPPS日本 ニュージーランド支部間 交流事業報告

宮崎大学大学院 農学研究科 日高 拓未



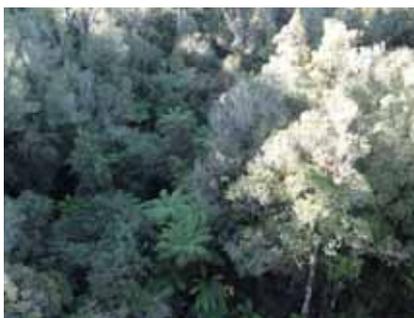
私は宮崎大学大学院農学研究科に所属しており、主にカキわい性台木に関して研究しております。今回、幸運なことにニュージーランド支部との国際交流事業に参加させて頂く事ができ、2013年の4月12日から29日までの約3週間、NZを訪問することができました。滞在期間中は多くの現地会員の方々がホストとして受け入れてくださり、手厚くもてなして頂きました。そのおかげで、日本ではできない体験や刺激を受けることができ、有意義な時間を過ごすことが出来ました。そこで今回、NZ滞在中に経験したことをいくつか紹介させて頂きたいと思います。

この旅で最初に出会った植物はフェイジョア (*Feijoa sellowiana* Berg.) 【写真1】というフトモモ科の果樹でした。ニュージーランドはフェイジョアの生産量が世界最大であり、滞在中に訪れた多くのナーセリーの全てで取り扱われていました。果実は、程良い酸味とシャリシャリとした食感があり、滞在中は何度も口にしました。国内有数の降水量を持つウエストコーストでは Tree Top Walk という深い森の中に木々を縫うように設置された橋を訪れ、多くのニュージーラ



【写真1】フェイジョア樹

ンド固有の植物を観察することができ、その美しさと壮大さに感動しました【写真2】。ネルソンで訪問したナーセリーではニュージーランド固有の植物だけでなく多くの果樹が取り扱われており、私の研究材料であるカキ (*Diospyros kaki* Thunb.) も栽植されていました【写真3】。パーマストンノースで訪問したナーセリーではそこで実用されている挿し木方法について詳細に説明を受けました。カルスを育てるためにポットに浸す水を温かくし、ミストは冷たくすることにより発根率を上昇させる工夫がなされていました【写真4】。



【写真2】Tree Top Walkからの景色



【写真3】栽植されていたカキ樹



【写真4】挿し木繁殖施設



【写真5】地熱を利用した加温栽培施設



【写真6】オットセイのコロニー

また、滞在期間中に開催されていたIPPS ニュージーランド支部年次大会にも参加することができました。年次大会は北島のタウポで行われ、多くの現地会員が一堂に集結し、研究発表が行われていました。また、視察では地熱発電所や地熱を利用した加温栽培施設といった火山地帯のタウポならではの場所を訪れことができました【写真5】。

その他にもホストファミリーの方々と共に野生のオットセイのコロニーを観察したり【写真6】、観光列車トランスアルパイン号に乗りサザンアルプスの雄大な景観を眺めたり【写真7】、首都ウェリントンを象徴する建物である国会議事堂(ビーハイブ)【写真8】を観たり、ネルソンのクライストチャーチ大聖堂を訪問するなど【写真9】、ニュージーランドの自然や文化を十分に堪能す

ることができました。

最後に、私にこのような貴重な体験をする機会を与えてくださったIPPS日本支部の方々や懇切丁寧にお世話をしてくれたニュージーランド支部の方々には心より感謝申し上げます。この交流事業で得た経験を今後の人生に生かしたいと思えます。また、この素晴らしい交流事業が今後更に発展し、支部間の交流を深めるとともに多くの方が貴重な体験をできる事を願っています。



【写真7】トランスアルパイン号からの景色



【写真8】ビーハイブ(国会議事堂)



【写真9】クライストチャーチ大聖堂

## 「浜名湖花博2014」の紹介

静岡県立農林大学校教務課  
園芸学科 花きコース 鉢物担当  
主査

鈴木 智子



来る2014年3月～6月にかけて開催される‘浜名湖花博2014’のご案内をさせていただきます。正式名称はちょっと長いのですが、～浜名湖花博10周年記念事業・第31回全国都市緑化しずおかフェア～です。

今からさかのぼること10年前、‘浜名湖花博’が静岡県西部の浜名湖畔において半年間にわたり開催されました。この花博に合わせてIPPSの国際大会も実施されましたので、ご来場くださった方々も多いのではないかと思います。静岡県の花関連業界もこの祭典を機に大きな盛り上がりを見せました。

現在、跡地は‘県立都市公園 浜名湖ガーデンパーク’として、県内外の方に親しまれる憩いの場所となっています。この‘浜名湖ガーデンパーク’及び同じ浜松市内にある‘はままつフラワーパーク’の2ヶ所を会場として‘浜名湖花博2014’が開催されることになりました。

まず、はままつフラワーパーク会場の紹介を



出展準備風景  
(セメントと新聞紙を用いてプランター本体を作成しました)

します。会期は2014年3月21日(祝・金)～6月15日(日)までです。会期の初めには、1300本の桜と50万球のチューリップで魅せる‘日本一美しい桜とチューリップの庭園’がお楽しみいただけます。その後も、日本初の女性樹木医である塚本こなみ理事長プロデュースによる‘藤(棚仕立・庭木仕立)’や‘ヒマラヤの青いケシ’など様々の花々の饗宴で皆様をお出迎えます。

続いて浜名湖ガーデンパーク会場の紹介です。こちらの会期は4月5日(土)～6月15日(日)までです。2000品種100万株の草花が初夏の会場を彩ります。また、静岡県に関わりの深い家康にちなみ、「徳川家康からはじまる江戸の園芸文化」をテーマとした展示、さらには千葉大学にて研究開発された‘青い胡蝶蘭’の展示、住宅メーカーのCMでおなじみのゴールドメダリスト石原和幸氏による‘特別展示ガーデン’など見どころいっぱいです。

さて、前置きが長くなりましたがここからが本題?です。私が勤務する静岡県立農林大学校も浜名湖ガーデンパーク会場に出展することとなりました。本校は10年前の浜名湖花博において、オランダのウエラントカレッジと姉妹校提携の締結式を実施し、今でも学生の交流を続けています。当時会場内のオランダ庭園において、本校とオランダの学生達が協同でデモンストレーションを実施したのですが、その庭園跡地が我々の今回の出展場所です。この場所は、5年前に開催された「ワールドガーデンコンペティション」

において、アメリカのガーデナーにより‘リサイクル資材を用いた田舎風庭園’に生まれ変わっています。今回は、この庭園の履歴を尊重して‘オランダ’と‘リサイクル(アップサイクル)’をキーワードとし、最新のオランダ事情に詳しいガーデナー平工詠子氏を指南役に迎えました。園芸学科花きコースの学生達は、魅力的な庭園を作り出すべく、力を合わせて日々準備しています。会員の皆様におかれましても、ぜひ会場へ足を運んでいただければと思います。



10年前に開催された「浜名湖花博」での出展風景

## 大森直樹会員の著作の紹介



### 「イチジク」

「青果店に並ぶ品種が少ない」そして「栽培は簡単」。まさに家庭で栽培したい果樹、イチジク。ぜひ食べてみたい極上品種をたっぷり紹介しつつ、よりおいしい果樹を収穫するための毎月の管理・作業を徹底解説する。ビギナーからマニアまで満足の、イチジク本です。

### 「家庭でできる おいしいブドウづくり 12か月」

ビギナーでも育てやすいオススメの品種リストが充実！庭植え、鉢植え、グリーンカーテンなど、目的・条件別に栽培のコツがよくわかります。



### 「一年中楽しめる コンテナ果樹の育て方」

大きな庭がなくても出来ます！花を見る楽しさと、実を育てるよろこび。新鮮でおいしい果物がいつでも身近で味わえる... そんな生活はいかがですか？

会員の皆様のお買い上げをお待ちしております。  
お問い合わせ先：(株)山陽農園 〒709-0831 岡山県赤磐市五日市215  
TEL086-955-3681 FAX086-955-2240  
<http://www.sanyo-nursery.co.jp/>

# 新入会者の紹介



林 慎吾

岡山県岡山市  
2013年1月入会

林慎吾さんは岡山市北区津高で葡萄と桃、水稻の生産、販売をされています。主に葡萄の栽培がメインで近年では従来品種の価格が下がってきている傾向や消費者の目線になり喜ばれるような新しい品種の栽培にも積極的に取り組んでおられます。国内だけでなく海外も視野にいれているいろいろなことに取り組みされていて、海外視察等に行くなど日々勉強されており、国内、さらには海外での活躍を期待したいです。



高野 恵子

須崎農業振興センター、高知県須崎市  
2013年3月入会

生まれも育ちも高知県です。大学卒業後、地元就職して今に至っています。現在、高知県須崎農業振興センターで農業改良普及指導員をしています。専門は花き栽培で、特にユリ類に関心があります。園芸植物も好きですが、野生植物のほうが面白く、それを観察するための軽登山が趣味になっています。あと少しで定年退職したら、夫とともに農作業に精を出そうと考えています。遅い加入ですが、よろしく願いいたします。



日高 拓未

宮崎大学、宮崎県東諸県郡  
2013年7月入会

私は現在、宮崎大学大学院農学研究科に所属しています。研究テーマとして、カキわい性台木について日々、調査・研究しております。将来的には学生時代に培った園芸に関する知識や経験を活かせる職に就き、園芸界の発展に貢献できるようになりたいと思っております。今後とも、よろしく願いいたします。



登坂 初夫

(株)登坂園芸、群馬県吾妻郡  
2013年10月入会

はじめまして群馬県の中山間地で約四十年鉢物栽培をしている登坂です。このような会に誘われて入会しましたが、わたしは育種家でも増殖家でもどちらにも属さないたんなる生産者です。さて、私の自己紹介ですが、今年還暦を迎えました。高校を卒業と同時に農業後継者として花の栽培を始めました。あれから四十年あまり進化のない経営をしています。標高500mの準高冷地に約2.5haの農場に約5500㎡の施設があります。夏はあまり暑くないですが、冬の寒さは半端ではありません。そんな環境の中で現在はシクラメン・あじさい・ルクリアを中心に栽培しています。寒い環境の中でアジサイの栽培はあまり効率の良いことではありませんがこの環境の中で利用できる場所もあります。シクラメンは夏の涼しさの中で休むことなく生育しますのでホルモン剤の使用はしなくても12月までには開花します。ルクリアは9～12月まで出荷しています。

今のところ私にとってIPPSに参加することが何かよく解りません。みなさんとの交流の中で何か見つけたいと思います。よろしく願いいたします。

## IPPS-J 第九期理事・監事・役員・理事代理名簿(2013.1.1~2014.12.31)

	役職	氏名	担当	会社・所属
1	会長	鈴木 隆博		(株)浜松花き 代表取締役
2	副会長	大橋 広明		愛媛大学農学部 生物資源学科 助教
3	副会長	水谷 朱美		(株)ベルディ 代表取締役
4	事務・会計理事	南出 幹生		南出(株) 代表取締役
5	編集理事	富田 正徳		(株)アイエイアイ エコファーム部
6	国際理事	鉄村 琢哉	BlackBook	宮崎大学 農学部 教授
7	理事	石井 克明	インターネット	森林総合研究所 森林バイオ研究センター センター長
8	理事	内田 恵介	IPPS活性化	グリーンクラフト 代表
9	理事	大西 隆	岐阜大会	(有)セントラルローズ 代表取締役
10	理事	藤森 忠雄	ニュースレター	(株)赤塚植物園 社長室長 常務執行役員
11	監事	遠藤 弘志	岐阜大会	
12	国際理事代理	Peter F.Waugh		Carann Managing Director
13	国際交流推進委員	大森 直樹	IPPS活性化	(株)山陽農園 代表取締役
14	年史編纂委員	佐藤 伸吾		三菱樹脂アグリドーム(株) 営業部 商品・ハイテクグループ課長
15	理事代理	青山 兼人		兼弥産業(株) 事業本部 取締役部長
16	理事代理	速水 正弘		静岡県立農林大学校 教務課 専門員
17	理事代理	乗越 亮	神奈川大会	東京農業大学 農学部 助教
18	理事代理	登坂 初夫	群馬大会	(株)登坂園芸 代表取締役

## 編集後記

### IPPSの日本支部の皆様

新年あけましておめでとうございます。今年が皆様にとって素晴らしい年になりますように、心からお祈り申し上げます。

さて、昨年はこの会が日本で発足して満20年の節目の年にあたり、岐阜県大垣市にて第20回岐阜大会が盛大に開催されました。また、7月には記念の特別ツアーも企画され参加者に大変に喜ばれました。今回の岐阜大会ではこの会の新しい方向性が示されたような感想を持つことが出来、大変に嬉しく思いました。

IPPSの世界的な傾向として、会員の減少があります。日本支部においても残念ながらその傾向にあります。従いまして、新しい会員の入会のためにご努力して頂くようお願いしたいと思います。

今回の51号の発行に際しまして、昨年の大会当日、皆様にお会いして直接お願いしましたところ、沢山の

原稿が集まり、嬉しい悲鳴を上げました。そのためにページ数16ページとなりました。

ニュージーランドのアリスさんの原稿は次号へ掲載することといたしました。

今年もニュースレターの発行をやらせていただきますが、皆様のご協力を宜しくお願い致します。

ニュースレター担当：藤森忠雄



(株)赤塚植物園  
ユートピアファーム内の  
希少植物